

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371601226		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームひらばり 1階		
所在地	愛知県名古屋市天白区向が丘4丁目1001番地		
自己評価作成日	令和4年11月3日	評価結果市町村受理日	令和5年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNo=2371601226-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNo=2371601226-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年12月1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所としては、地域・家族・利用者、そして職員4者での介護を目指している。地域とともにある施設だからこそ、地域との関わり合いを大切にしている。コロナ感染対策を図りつつ、ご家族参加型レクリエーションや泊旅行の開催を行った。家族面会も制限を設けつつも、できる限り機会を設け、お互いが心潤う関係性を築けるよう取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

家族、地域、行政、ホームと、関係者が連携して利用者を支えていく仕組みが構築されている。サービス担当者会議には必ず家族が参加して意見や要望を述べ、利用者のその人らしい暮らしを支援する一員となっている。家族参加の行事や泊旅行にも多数の家族が参加し、ホームとの厚い信頼関係が窺える。運営推進会議には多数の地域住民や区職員、地域包括支援センター職員等が参加し、互いの情報を交換し合っている。地域行事とホーム行事への相互参加や役割分担をする等、密な連携が図られている。支援者の支えにより、利用者がその人らしく暮らせる環境が整っている。「あなたが主役」を職員は常に意識しており、職員の提案は丁寧に考慮され、利用者の希望の実現に連携して適進している。誰もが達成感を得られるホームを目指し、一体感を感じられるチームがここにはある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたが主役」を施設方針とし、1人ひとりが、生活場面や行事などで主役となれるよう、日々工夫をして実践しています。また毎年施設方針をスタッフ皆で見直し、立てた目標の達成に向けて取り組みをしています。	「ほほえみと感動を生み出す」との法人理念を屋礼で読み合わせている。それを展開したホーム理念を定め、「何故その人はそうするのか」を深掘りするための5つの視点をもって、利用者主体の暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍に伴い、感染予防の観点から地域との関わりは少なかつたですが、朝市など感染対策を行いながら開催を行っております。	地域の神社で再開された盆踊りに家族も一緒に参加し、楽しむことができた。継続している朝市には地域住民が多数訪れており、コロナ下においても可能な活動は継続し、交流が途切れぬよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	HP等で相談窓口を設けており、相談等をメールで頂いています。またNPO活動を通して認知症との関わりや認知症についての講演を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、民生委員やご家族など地域の方に参加頂き、施設の活動報告を通して、ご意見を頂いています。(朝市の協力等)また、地域行事や催しものについて、地域の方の参加により情報提供頂いています。	法人内のホームが合同で運営推進会議を開催しており、参加メンバーは利用者家族、行政、複数の地域代表、知見者など多様な人材で構成されている。ホームや地域、行政それぞれの報告を基に、有意義な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議へ天白区職員の方への参加の打診を毎回回り、いきいき支援センターの職員の方も会議で交流を深めその後の情報交換や行事での交流等が行えます。	運営推進会議に区福祉部職員や地域包括支援センター職員が参加しており、定期的に情報提供を受け、助言を受ける機会が確保されている。ホームの現状や取組みは理解されており、緊密な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束」について研修と勉強会を行っています。直接身体の拘束だけではなく、スピークロックや鍵をかけない事やバリデーションについても意識を高めるため、トイレに掲示し、普段から高齢者への関わり方に注意できるように対応しています。	3ヶ月毎に身体拘束についての研修と委員会が開催されており、指針の読み合わせや現状確認を行っている。見守りによる安全確保を徹底しており、職員の意識は高く、身体拘束の弊害を理解している。玄関も施錠せず、利用者の外出願望には同行して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待」について研修を行うことで、意識を高めています。※年間研修計画を立て、実践しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に「成年後見制度」を利用されてる方がいらっしゃるため、研修やミーティングなどで勉強する機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、「契約書」「運営規定」「重要事項説明書」を1時間以上かけて全て読み合わせています。その上で、ご家族様からの疑問点を伺いながら、理解・納得された上での契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段来初された際やカンファレンスの際に、行事の内容をどうするか意見を聞く機会を設けたり、家族間交流を図っています。	家族の面会は多く、サービス担当者会議や一泊旅行、企画外出への参加と、家族の積極的支援が得られている。ホームの様子は便りのほか、ブログやInstagram、ユーチューブなど多様な手段で発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティング、全体ミーティング等社員からパートまで幅広く意見を取り入れる機会を設け、トップダウンではなく、意見を反映できるようにしています。また面談等スタッフと話す時間を設け、意見を聴く機会を持ち、反映させています。月に1回お茶会の実施もあります。	職員ミーティングや個人面談などで、常に意見交換できる機会を設けている。毎月の目標設定が行われており、個人面談はその振り返りとメンタルケアの場となっている。職員は定着しており、職場環境の良さが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、目標管理面談を実施し、自分の目標を定めることで、モチベーションを高く持ち業務に臨んで頂けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、認知症実践者研修や管理者研修など、内部研修では「接遇」や「会議」など研修を毎月行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への施設見学会の実施や実習生の受け入れを行い、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用していただく前に見学して頂き、実際に利用を開始する際、なるべく安心して開始できるようにしています。また相談があった際には、困っている事や不安な事を伺い、サービス開始に結び付けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に「センター方式シート」の記入をご家族様に依頼しています。それを元にスタッフも受け入れやどう対応するか対策を練る事ができ、安心して入居して頂けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様との聞き取りの中で、本当に困っていることを聞きとりし、ご本人にとって1番を考えられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を1人の「個」として理解し、介護してあげるのではなく、共に生活するという視点で介護を行っています。できないからするのではなく、できるようにするためにはどうしたらいいかを考えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には積極的に参加して頂いています。春夏秋冬のレクでは「ご家族挨拶」など家族様にも役割を担って頂き、家族と共に行うことを大事にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カンファレンスや家族様の話の中で聞き取れたご本人のなじみを日々の生活の中で活かしているようにしています。	職員とお地藏様に参拝したり、家族支援で家族の食事会や馴染みの美容室に出かけるなど、関係継続を支援している。家族にマフラーを編んでプレゼントしたり、家族の来訪時に卵焼きを作って振る舞う利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時、15時とお茶の時間を同じ机で皆と和気あいあいしながら、お茶を楽しんでいます。その際、会話が弾んで、おしゃべりしたり、歌を歌ったりする姿もよく見られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方を施設行事に招き、グリーンケアを行っています。また年賀状のやり取りも行い、切れない縁を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活習慣をなるべく変えないように、過ごして頂くよう配慮しています。毎日新聞をとりに行くことが日課の方は、一緒に同行したり、仏壇に手を合わされる方は居室の仏壇やほほえみ地蔵まで一緒に行かせていただいております。	職員は常にホーム理念「あなたが主役」を意識しており、利用者と職員が共に楽しんで取り組める目標設定のためにも、利用者の意向や希望を把握することが重要であることを理解している。家族の話も参考としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族からの情報収集、インテーク資料やセンター方式を必ず作成し、これまでの暮らしを皆で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアミーティングを開催し、入居者の変化や対応について話し合いをしています。週の目標に入居者様を視点に当てケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的または必要時に行う事でご本人・ご家族・介護士・ケアマネ・管理者等が参加し現状に即したプランの立案を行っている。	利用者ごとの目標と支援内容が分かる実施記録から、毎日モニタリングを行い、毎週達成率を算出している。サービス担当者会議では、家族の参加を得て要望を聞き取り、職員間で支援方法を話し合う機会を設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録とは別に、独自に介護記録③を作成しています。ケアプランから導いているので、日々モニタリングを行いながら、ケアの実践に役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や体調不良時にすばやく対応して下さる提携医師の協力、通院も家族のご都合に合わせ柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事があれば、参加をし、地域に溶け込んだ施設を目指しておりますが、コロナ禍にて感染対策の観点から難しく感じています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に2週間に1度来られ、入居者の体の変化を報告し、適切な指示を頂いています。また、整形受診や他の病院受診なども行っています。	24時間対応のホーム協力医による訪問診療が月2回あり、訪問歯科と訪問眼科の診療も受けられる。専門科の受診は原則家族対応としているが、柔軟に対応している。家族への情報提供や情報共有は丁寧に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の無い週に来所され、介護記録④を元に、入居者の体の変化を報告し、適切な指示を医師に伝えて頂いています。同じ看護婦さんが来て下さるので、入居者様との距離も近く、入居者様も安心しておられます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、症状が落ち着いたら面会に伺い、担当医やワーカーから現状の確認も合わせ、情報収集を行っています。それを元に今後の話し合いをなるべく早期に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスにて「同意書」を元に、どうするかをご家族、医師、スタッフで、ご本人のためにどうしていくかを話し合っています。その際、ご本人がどう過ごしたいかを重点に置き、その人らしく過ごせるように取り組んでいます。※今期は1名看取りを行わせていただいております。	入居時にホームでできる対応を説明し、同意を得ている。段階ごとに家族と話し合い、医師も交えた話し合いで方針を決めている。カンファレンスで職員の気持ちも確認し、支援のあり方を共有している。家族もホームに泊まり込み、最期まで看取り支援に付き添った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング等で緊急時の対応について勉強会を実施し、普段から気をつけるように指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	何かあればすぐに駆け付けよう、近隣にスタッフが住んでいます。また施設のスタッフが地域の消防団に入っている為、何かあればすぐに協力をいただけるようになっています。夜勤対応の防災訓練実施済み。	地域の消防団と連携しており、避難訓練にも参加を得て、助言を受けながら地震と火災を想定した訓練を行っている。地域の防災訓練では、依頼を受けて車椅子の使用方法を指導し、相互の協力体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の入居者様を尊敬できる存在として、呼び方や言葉かけには、その方に合わせるように指導しています。トイレ介助の際は、カーテンを閉め、プライバシーが保てるように徹底しています。	利用者本位の支援に取り組み、「その人らしさ」を尊重している。利用者のやりたい事を聞き出し、企画は利用者本位であるか、職員本位になっていないかを意識している。言葉使いや羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の際は「何がしたいか？」などアンケートをとり、なるべくご本人の意向に沿うようにしています。買い物も「～が買いたい」「～へ行きたい」とあれば、意向に沿った支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調理や掃除等のお手伝いから、編み物や歌等今までされてきた事をそのままに、本人の「やりたい」に日々答えております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の化粧水の使用や、訪問美容によるカラーなど、いつまでの女性らしい身なりが整えられるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に沿ったメニューを立てて、入居者の好みを献立に活かしています。また一緒に作ることで食事の楽しみを作っています。	利用者に希望を聞きながら、その日のメニューを決めている。利用者主体で工程が進むよう、できることは全て利用者が行い、職員は補助する姿勢をとっている。包丁を使った調理や揚げ物調理なども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に水分量、食事が記載できるようにしています。なかなか水分が摂取できない際は、水分形態を変える等工夫して摂取して頂いています。また食事が少ない際は、おやつなどの間食にてバランスを取っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。また定期的に訪問歯科の先生が見え、口腔のチェックを頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりにあわせたトイレ誘導を実施しています。また声かけに関しても、一人一人に合わせて内容で実施しています。	排泄支援では、時間や様子を見ながら、利用者一人ひとりに合わせた声掛けをしている。ポータブルトイレの使用は避け、必要に応じて夜間も声掛けをすることがある。適切な支援により、リハビリパンツから布パンツに変更できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなど腸に良い食材を取り入れたり、なるべく水分や食物繊維の多いものを取って頂いたり、運動して自然な排便が行えるように工夫しています。また便秘にすぐに対応できるよう、医師とも連携を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れたり、歌を流したり入浴を楽しんでいただけるよう関わらせて頂いています。またスタッフが1対1にて入浴をすることで、ご本人の話をじっくりと聞く時間にはしています。	週3回の入浴を基本としており、入浴剤を使用したり柚子湯等の季節湯の提供もある。入浴拒否には無理強いせず、日を改めたり対応する職員を入れ替えたりしている。家族の協力で風呂場へ誘導できたこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前に聞き取りした、ご本人の生活リズムに合わせて、就寝して頂いています。できるだけご本人のなじみの生活に沿うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対しては、常に危機意識を持つように、指導しています。服薬時にはダブルチェックや口腔内の確認を実施。服薬変更時には、薬剤師にも確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際に、センター方式の記入シートに記入して頂き、ご本人の好きなことや役割をできるだけ、施設内でも取り入れております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、買い物などは控えている為、散歩の機会を毎日設けています。また、家族参加型レクとして「散歩レク」を開催しました。	散歩や畑の水やり、お地蔵様への参拝など、外気に触れる機会は確保されている。旅館を貸切った家族参加の一泊旅行や、家族と共に近隣にある農業センターへの外出企画など、徐々に企画外出を再開している。家族支援による個室での外食も再開している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理をすることが出来る方は、管理をして頂き、難しい方は事務所で管理をし、必要時に合わせてお小遣いを出すことが出来ます。スタッフが、1人ひとりの管理能力に合わせて金額等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月お渡しする「ほほえみ便り」に本人からの感謝のメッセージを記載していただく等実践しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、玄関先やDRを飾りを利用者様と一緒にいき、季節感を感じて頂いています。建物内は畳や木材など馴染みのものを使い、キッチンからは、DRでの様子が見られるようにしています。	コロナ感染防止の観点から、共有空間の視察なし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを囲む形での居室になるため、皆で団欒をする時はリビングで各々過ごして頂いています。テレビを見られたり、編み物をされたりとみなさんが自由に過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた馴染のものや好みものを持ってきていただくようご家族様をお願いをしています。タンスや仏壇を置かれている方や、家族との写真を部屋に飾られる方などもいらっしゃいます。	コロナ感染防止の観点から、居室の視察なし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに案内板を設置したり、浴室内の手すりを赤色の物を採用したり、ご本人が「わかる」ように工夫したものです。一人ひとりの理解力に合わせて、様々な工夫をしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601226		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームひらばり 2階		
所在地	愛知県名古屋市天白区向が丘4丁目1001番地		
自己評価作成日	令和4年11月3日	評価結果市町村受理日	令和5年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371601226-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371601226-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年12月1日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所としては、地域・家族・利用者、そして職員4者での介護を目指している。地域とともにある施設だからこそ、地域との関わり合いを大切にしている。コロナ感染対策を図りつつ、ご家族参加型レクリエーションや一泊旅行の開催を行った。家族面会も制限を設けつつも、できる限り機会を設け、お互いが心潤う関係性を築けるよう取り組んでいる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたが主役」を施設方針とし、1人ひとりが、生活場面や行事などで主役となれるよう、日々工夫をして実践しています。 また毎年施設方針をスタッフ皆で見直し、立てた目標の達成に向けて取り組みをしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍に伴い、感染予防の観点から地域との関わりは少なかったですが、朝市など感染対策を行いながら開催を行っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	HP等で相談窓口を設けており、相談等をメールで頂いています。 またNPO活動を通して認知症との関わりや認知症についての講演を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、民生委員やご家族など地域の方に参加頂き、施設の活動報告を通して、ご意見を頂いています。(朝市の協力等) また、地域行事や催しものについて、地域の方の参加により情報提供頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議へ天白区職員の方への参加の打診を毎回図り、いきいき支援センターの職員の方も会議で交流を深めその後の情報交換や行事での交流等が行えます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束」について研修と勉強会を行っています。 直接身体の拘束だけではなく、スピークロックや鍵をかけない事やバリデーションについても意識を高めるため、トイレに掲示し、普段から高齢者への関わり方に注意できるように対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待」について研修を行うことで、意識を高めています。 ※年間研修計画を立て、実践しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に「成年後見制度」を利用されてる方がいらっしゃるため、研修やミーティングなどで勉強する機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、「契約書」「運営規定」「重要事項説明書」を1時間以上かけて全て読み合わせています。その上で、ご家族様からの疑問点を伺いながら、理解・納得された上での契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段来初された際やカンファレンスの際に、行事の内容をどうするか意見を聞く機会を設けたり、家族間交流を図っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティング、全体ミーティング等社員からパートまで幅広く意見を取り入れる機会を設け、トップダウンではなく、意見を反映できるようにしています。また面談等スタッフと話す時間を設け、意見を聴く機会を持ち、反映させています。月に1回お茶会の実施もあります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、目標管理面談を実施し、自分の目標を定めることで、モチベーションを高く持ち業務に臨んで頂けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、認知症実践者研修や管理者研修など、内部研修では「接遇」や「会議」など研修を毎月行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への施設見学会の実施や実習生の受け入れを行い、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用していただく前に見学して頂き、実際に利用を開始する際、なるべく安心して開始できるようにしています。また相談があった際には、困っている事や不安な事を伺い、サービス開始に結び付けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に「センター方式シート」の記入をご家族様に依頼しています。それを元にスタッフも受け入れやどう対応するか対策を練る事ができ、安心して入居して頂けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様との聞き取りの中で、本当に困っていることを聞きとりし、ご本人にとって1番を考えられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を1人の「個」として理解し、介護してあげるのではなく、共に生活するという視点で介護を行っています。できないからするのではなく、できるようにするためにはどうしたらいいかを考えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には積極的に参加して頂いています。春夏秋冬のレクでは「ご家族挨拶」など家族様にも役割を担って頂き、家族と共に行うことを大事にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カンファレンスや家族様の話の中で聞き取れたご本人のなじみを日々の生活の中で活かしているようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時、15時とお茶の時間を同じ机で皆と和気あいあいしながら、お茶を楽しんでいます。その際、会話が弾んで、おしゃべりしたり、歌を歌ったりする姿もよく見られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方を施設行事に招き、グリーンケアを行っています。 また年賀状のやり取りも行い、切れない縁を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活習慣をなるべく変えないように、過ごして頂くよう配慮しています。 毎日新聞をとりに行くことが日課の方は、一緒に同行したり、仏壇に手を合わされる方は居室の仏壇やほほえみ地藏まで一緒に行かせていただいております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族からの情報収集、インテーク資料やセンター方式を必ず作成し、これまでの暮らしを皆で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアミーティングを開催し、入居者の変化や対応について話し合いをしています。週の目標に入居者様を視点に当てケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的または必要時に行う事でご本人・ご家族・介護士・ケアマネ・管理者等が参加し現状に即したプランの立案を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録とは別に、独自に介護記録③を作成しています。ケアプランから導いているので、日々モニタリングを行いながら、ケアの実践に役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や体調不良時にすばやく対応して下さる提携医師の協力、通院も家族のご都合に合わせ柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事があれば、参加をし、地域に溶け込んだ施設を目指しておりますが、コロナ禍にて感染対策の観点から難しく感じています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に2週間に1度来られ、入居者の体の変化を報告し、適切な指示を頂いています。また、整形受診や他の病院受診なども行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の無い週に来所され、介護記録④を元に、入居者の体の変化を報告し、適切な指示を医師に伝えて頂いています。 同じ看護婦さんが来て下さるので、入居者様との距離も近く、入居者様も安心しておられます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、症状が落ち着いたら面会に伺い、担当医やワーカーから現状の確認も合わせ、情報収集を行っています。それを元に今後の話し合いをなるべく早期に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスにて「同意書」を元に、どうするかをご家族、医師、スタッフで、ご本人のためにどうしていくかを話し合っています。 その際、ご本人がどう過ごしたいかを重点に置き、その人らしく過ごせるように取り組んでいます。※今期は1名看取りを行わせていただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング等で緊急時の対応について勉強会を実施し、普段から気をつけるように指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	何かあればすぐに駆け付けよう、近隣にスタッフが住んでいます。また施設のスタッフが地元の消防団に入っている為、何かあればすぐに協力をいただけるようになっています。夜勤対応の防災訓練実施済み。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の入居者様を尊敬できる存在として、呼び方や言葉かけには、その方に合わせるように指導しています。 トイレ介助の際は、カーテンを閉め、プライバシーが保てるように徹底しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の際は「何がしたいか？」などアンケートをとり、なるべくご本人の意向に沿うようにしています。 買い物も「～が買いたい」「～へ行きたい」とあれば、意向に沿った支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調理や掃除等のお手伝いから、編み物や歌等今までされてきた事をそのままに、本人の「やりたい」に日々答えております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の化粧水の使用や、訪問美容によるカラーなど、いつまでの女性らしい身なりが整えられるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に沿ったメニューを立てて、入居者の好みを献立に活かしています。 また一緒に作ることで食事の楽しみを作っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に水分量、食事が記載できるようにしています。なかなか水分が摂取できない際は、水分形態を変える等工夫して摂取して頂いています。また食事が少ない際は、おやつなどの間食にてバランスを取っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。 また定期的に訪問歯科の先生が見え、口腔のチェックをして頂いています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりにあわせたトイレ誘導を実施しています。 また声かけに関しても、一人一人に合わせた内容で実施しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなど腸に良い食材を取り入れたり、なるべく水分や食物繊維の多いものを取って頂いたり、運動して自然な排便が行えるように工夫しています。また便秘にすぐに対応できるよう、医師とも連携を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れたり、歌を流したり入浴を楽しんでいただけるよう関わらせて頂いています。またスタッフが1対1にて入浴をすることで、ご本人の話をじっくりと聞く時間にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前に聞き取りした、ご本人の生活リズムに合わせ、就寝して頂いています。 できるだけご本人のなじみの生活に沿うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対しては、常に危機意識を持つように、指導しています。服薬時にはダブルチェックや口腔内の確認を実施。服薬変更時には、薬剤師にも確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際に、センター方式の記入シートに記入して頂き、ご本人の好きなことや役割をできるだけ、施設内でも取り入れております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、買い物などは控えている為、散歩の機会を毎日設けています。 また、家族参加型レクとして「散歩レク」を開催しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理をすることが出来る方は、管理をして頂き、難しい方は事務所で管理をし、必要時に合わせてお小遣いを出すことが出来ます。スタッフが、1人ひとりの管理能力に合わせて金額等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月お渡しする「ほほえみ便り」に本人からの感謝のメッセージを記載していただく等実践しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、玄関先やDRを飾りを利用者様と一緒にいき、季節感を感じて頂いています。建物内は畳や木材など馴染みのものを使い、キッチンからは、DRでの様子が見られるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを囲む形での居室になるため、皆で団欒をする時はリビングで各々過ごして頂いています。テレビを見られたり、編み物をされたりとみなさんが自由に過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた馴染のものや好みのものを持ってきていただくようご家族様をお願いをしています。タンスや仏壇を置かれている方や、家族との写真を部屋に飾られる方などもいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに案内板を設置したり、浴室内の手すりを赤色の物を採用したり、ご本人が「わかる」ように工夫したものです。1人ひとりの理解力に合わせて、様々な工夫をしています。		